

令和4年度 秋学期
授業評価アンケート結果

令和5年3月13日
滋賀文教短期大学

1. 目次

ページ	内容
1	1. 目次
1	2. 授業アンケートについて
2	3. 授業アンケート質問項目
3	4. 授業アンケート集計結果
4	(1) 全学
5	(2) 国文学科全体
6	(3) 国文学科1年生
7	(4) 国文学科2年生
8	(5) 子ども学科全体
9	(6) 子ども学科1年生
10	(7) 子ども学科2年生
10	5. 全学的考察
11	(1) 授業アンケート結果について
12	(2) 授業の質向上のために
12	6. 国文学科全体の考察
13	(1) 授業アンケート結果について
14	(2) 授業の質向上のために
14	7. 子ども学科全体の考察
16	(1) 授業アンケート結果について
16	(2) 授業の質向上のために
16	8. 授業アンケート回答率の推移

2. 授業アンケートについて

■概要

本学では、実習科目を除く全科目の14回目または15回目で約10分程度の時間を設け、授業アンケートを実施している。学生は、学生ポータルサイトからアンケートに無記名式で回答する。

■実施期間

学年暦において14回目または15回目の授業内で授業アンケートを実施する。

秋学期開講科目は、令和4年12月5日～令和5年1月6日に実施した。

■授業アンケートの活用

授業アンケートの集計結果（学務課教務担当による集計）、科目レベルの学修成果の査定結果（授業アンケートによる学生の達成実感度と科目GPAによる査定）の主に2点をふまえて、授業検討票に省察を記録する。

本学の科目レベルの査定においては、学生の達成実感度60%以上かつ、科目GPAが2.00から3.00までのときを、望ましい水準とアセスメント・プランに定めている。

これらをふまえて、科目担当教員は授業に関してどのような工夫をすれば学生がより学修成果を獲得できるかを検討し、次年度に向けたシラバス改善案を記録する。

さらに、全科目の授業アンケート結果や授業検討票をもとに、各学科の総評を学科長が、全学的総評をFD委員長が行う。このような取り組みにより、科目レベルだけでなく組織的に授業のさらなる質向上に努めている。

授業アンケートの結果は、概要を本学ホームページで過去3年間分、学生ポータルサイトで自由記述欄以外の数値を公開している。また、授業検討票は閉架式にて学務課教務にて保管し、閲覧希望者に開示している

3. 授業アンケート質問項目

選択式の質問1～8は回答必須とし、自由記述欄である質問9については任意による回答とした。
質問と回答の選択肢を下記に引用する。

1. あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。【単一選択式】

シラバス記載の到達目標のうち、関連するディプロマポリシーにおいてカリキュラムマップ上で二重丸がついているものが科目担当教員から学生に1つだけ提示されます。

- ①達成できた ②おおむね達成できた ③達成できなかった

2. 授業内容は興味・関心が持てましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

3. 授業内容をよく理解できましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

4. この授業はシラバスに沿った内容でしたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

5. 学生の理解を促す工夫がなされていきましたか。【単一選択式】

(言葉による説明だけではなく、適切な資料、板書等の活用、グループワーク)

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

6. 工夫してほしいと感じたことを選んでください。【複数選択式】

- ①特になし ②分かりやすいパワーポイントや板書 ③教科書・配布資料の活用
④聞き取りやすい話し方 ⑤私語への対応

7. 教員は学生の理解や反応を見ながら授業を進めていましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

8. あなたは、この授業の予修・復修など自主学修に1週間あたりどのくらいかけましたか。【単一選択式】

※授業に間接的に関係のある学修を含む。学内外を問わず、授業時間以外の時間を回答(ピアノ練習、基礎プロ準備、実習準備等)

- ①3時間以上 ②2時間以上3時間未満 ③1時間以上2時間未満
④30分以上1時間未満 ⑤30分未満

9. あなたがこの授業を受ける中で感じた良かった点や改善してほしい点があれば、記述してください。

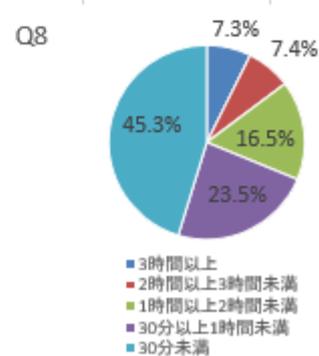
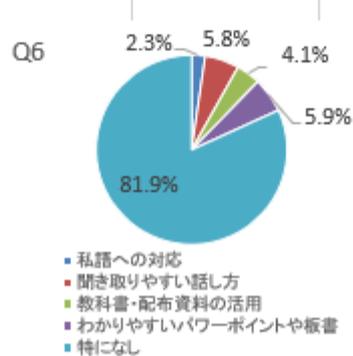
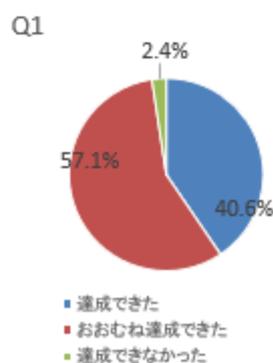
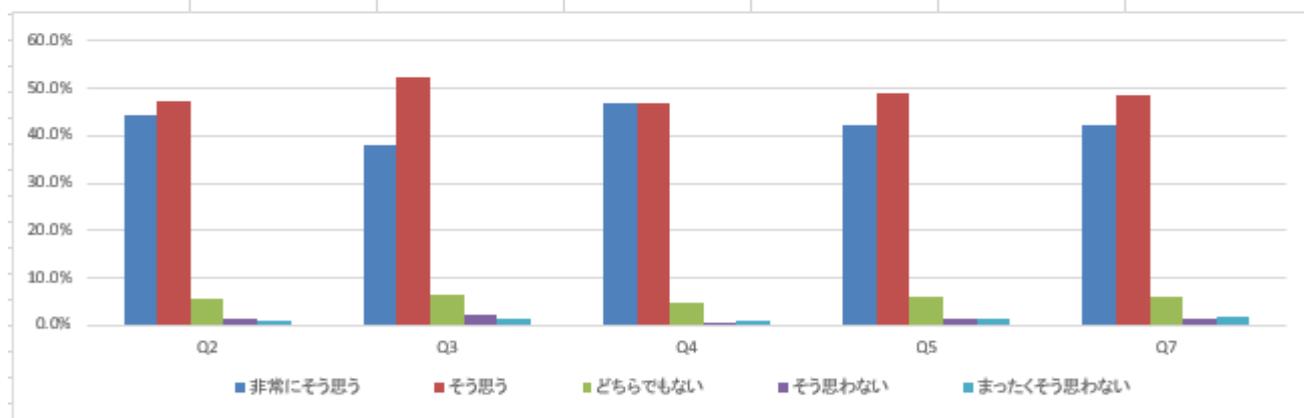
(特に記述することが無い場合は空欄のままでも問題ありません)

自由記述欄

4 - (1). 授業アンケート集計結果 (全学)

令和4 (2022) 年度秋学期 授業アンケート

●全体集計						
受講人数	回収数	回収率				
1797	1435	79.9%				
	1	2	3	4	5	計
Q1	582	819	34	-	-	1435
Q2	638	680	81	20	16	1435
Q3	547	749	92	30	17	1435
Q4	671	673	69	9	13	1435
Q5	603	705	85	19	23	1435
Q6	35	89	63	91	1254	1532
Q7	605	699	84	18	29	1435
Q8	105	106	237	337	650	1435
	1	2	3	4	5	計
Q1	40.6%	57.1%	2.4%	-	-	100.0%
Q2	44.5%	47.4%	5.6%	1.4%	1.1%	100.0%
Q3	38.1%	52.2%	6.4%	2.1%	1.2%	100.0%
Q4	46.8%	46.9%	4.8%	0.6%	0.9%	100.0%
Q5	42.0%	49.1%	5.9%	1.3%	1.6%	100.0%
Q6	2.3%	5.8%	4.1%	5.9%	81.9%	100.0%
Q7	42.2%	48.7%	5.9%	1.3%	2.0%	100.0%
Q8	7.3%	7.4%	16.5%	23.5%	45.3%	100.0%



4 - (2). 授業アンケート集計結果 (国文学科全体)

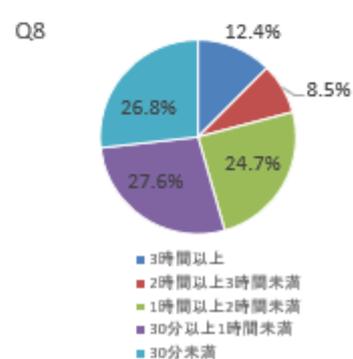
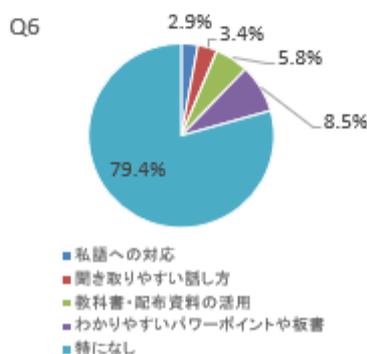
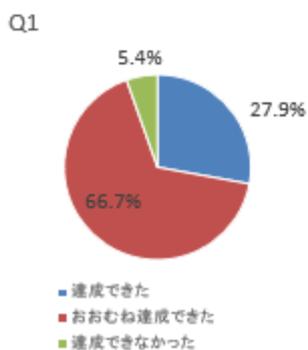
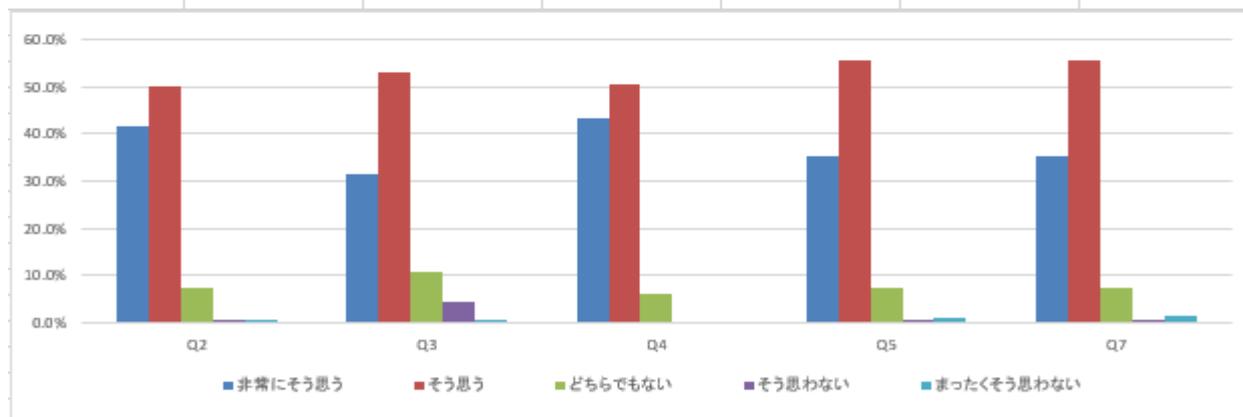
令和4(2022)年度秋学期 授業アンケート

●国文学科全体集計

受講人数	回収数	回収率
429	395	92.1%

	1	2	3	4	5	計
Q1	110	263	22	-	-	395
Q2	175	190	27	2	1	395
Q3	129	206	41	17	2	395
Q4	183	192	20	0	0	395
Q5	146	216	28	2	3	395
Q6	11	14	24	35	339	423
Q7	148	214	28	1	4	395
Q8	40	31	96	117	111	395

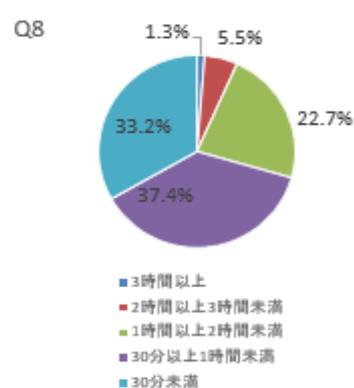
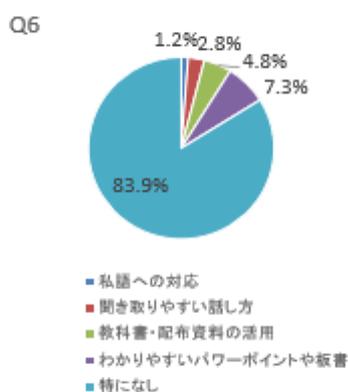
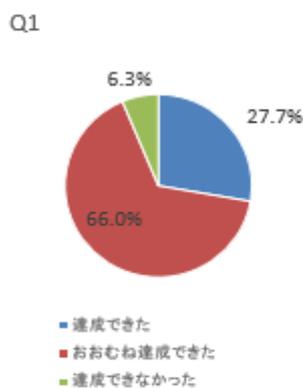
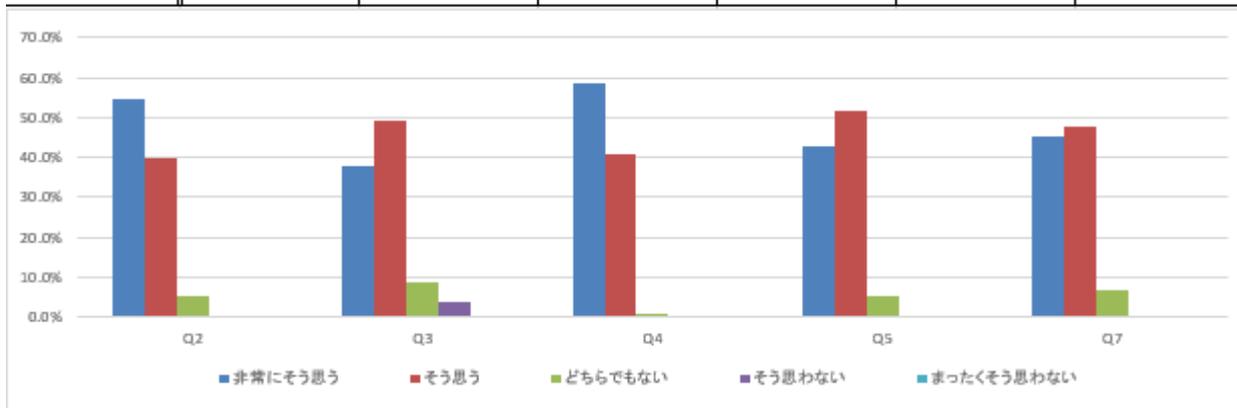
	1	2	3	4	5	計
Q1	27.9%	66.7%	5.4%	-	-	100.0%
Q2	41.6%	50.2%	7.3%	0.5%	0.3%	100.0%
Q3	31.3%	52.9%	10.8%	4.4%	0.5%	100.0%
Q4	43.2%	50.6%	6.2%	0.0%	0.0%	100.0%
Q5	35.4%	55.5%	7.5%	0.6%	1.0%	100.0%
Q6	2.9%	3.4%	5.8%	8.5%	79.4%	100.0%
Q7	35.4%	55.8%	7.2%	0.3%	1.3%	100.0%
Q8	12.4%	8.5%	24.7%	27.6%	26.8%	100.0%



4 - (3). 授業アンケート集計結果 (国文学科1年生)

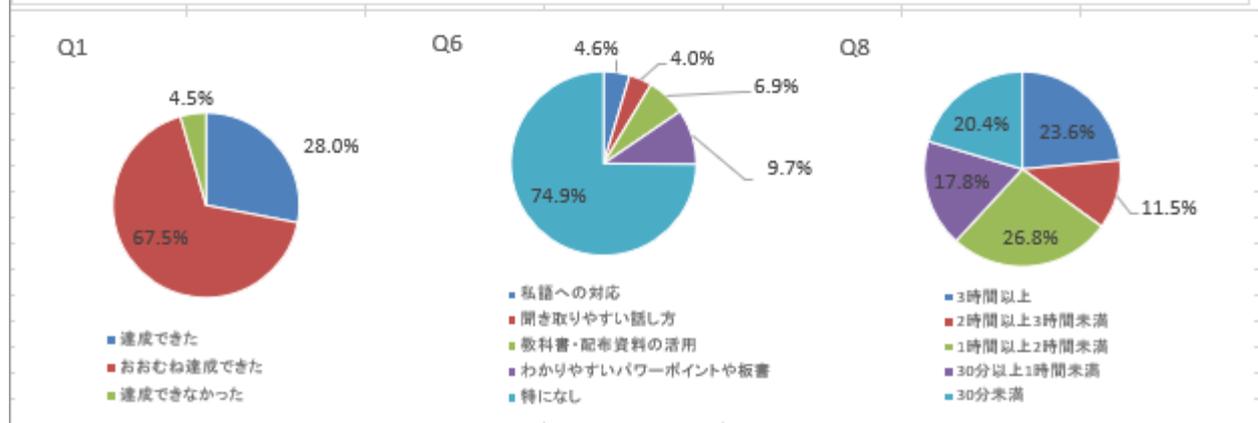
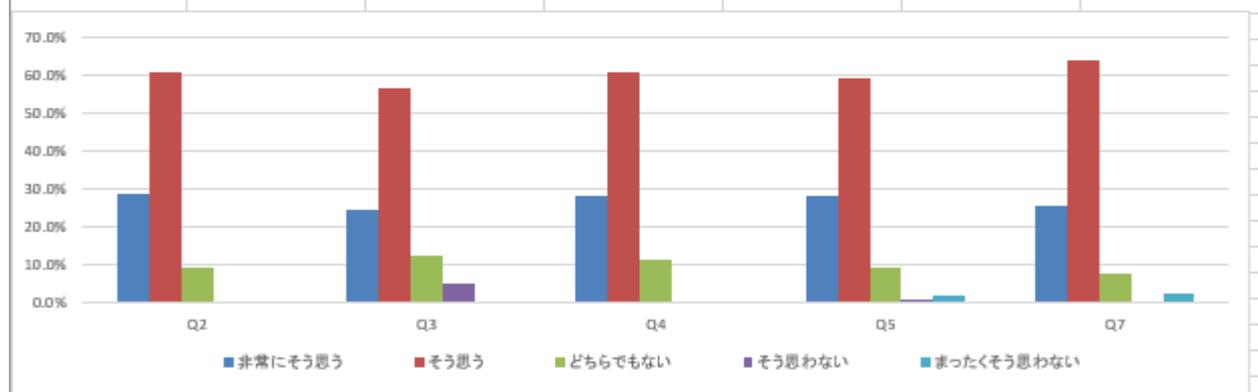
令和4(2022)年度秋学期 授業アンケート

●国文学科1年次生集計						
受講人数	回収数	回収率				
267	238	89.1%				
	1	2	3	4	5	計
Q1	66	157	15	-	-	238
Q2	130	95	12	1	0	238
Q3	90	117	21	9	1	238
Q4	139	97	2	0	0	238
Q5	102	123	13	0	0	238
Q6	3	7	12	18	208	248
Q7	108	114	16	0	0	238
Q8	3	13	54	89	79	238
	1	2	3	4	5	計
Q1	27.7%	66.0%	6.3%	-	-	100.0%
Q2	54.6%	39.9%	5.0%	0.4%	0.0%	100.0%
Q3	37.8%	49.2%	8.8%	3.8%	0.4%	100.0%
Q4	58.4%	40.8%	0.8%	0.0%	0.0%	100.0%
Q5	42.9%	51.7%	5.5%	0.0%	0.0%	100.0%
Q6	1.2%	2.8%	4.8%	7.3%	83.9%	100.0%
Q7	45.4%	47.9%	6.7%	0.0%	0.0%	100.0%
Q8	1.3%	5.5%	22.7%	37.4%	33.2%	100.0%



4 - (4). 授業アンケート集計結果 (国文学科2年生)

令和4(2022)年度秋学期 授業アンケート							
●国文学科2年生集計							
受講人数	回収数	回収率					
162	157	96.9%					
	1	2	3	4	5	計	
Q1	44	106	7	-	-	157	
Q2	45	95	15	1	1	157	
Q3	39	89	20	8	1	157	
Q4	44	95	18	0	0	157	
Q5	44	93	15	2	3	157	
Q6	8	7	12	17	131	175	
Q7	40	100	12	1	4	157	
Q8	37	18	42	28	32	157	
	1	2	3	4	5	計	
Q1	28.0%	67.5%	4.5%	-	-	100.0%	
Q2	28.7%	60.5%	9.6%	0.6%	0.6%	100.0%	
Q3	24.8%	56.7%	12.7%	5.1%	0.6%	100.0%	
Q4	28.0%	60.5%	11.5%	0.0%	0.0%	100.0%	
Q5	28.0%	59.2%	9.6%	1.3%	1.9%	100.0%	
Q6	4.6%	4.0%	6.9%	9.7%	74.9%	100.0%	
Q7	25.5%	63.7%	7.6%	0.6%	2.5%	100.0%	
Q8	23.6%	11.5%	26.8%	17.8%	20.4%	100.0%	



4 - (5). 授業アンケート集計結果 (子ども学科全体)

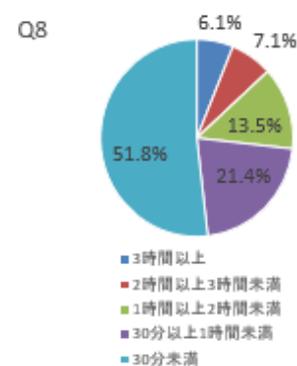
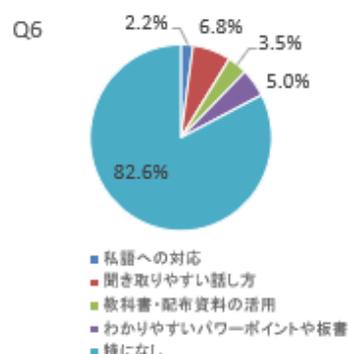
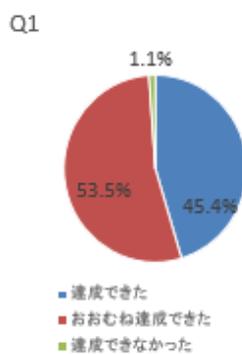
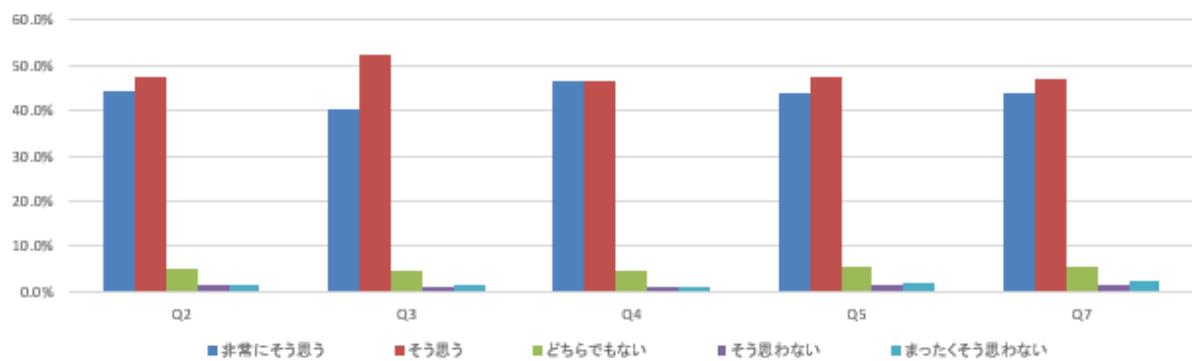
令和4(2022)年度秋学期 授業アンケート

●子ども学科全体集計

受講人数	回収数	回収率
1368	1040	76.0%

	1	2	3	4	5	計
Q1	472	556	12	-	-	1040
Q2	463	490	54	18	15	1040
Q3	418	543	51	13	15	1040
Q4	488	481	49	9	13	1040
Q5	457	489	57	17	20	1040
Q6	24	75	39	56	915	1109
Q7	457	485	56	17	25	1040
Q8	65	75	141	220	539	1040

	1	2	3	4	5	計
Q1	45.4%	53.5%	1.1%	-	-	100.0%
Q2	44.4%	47.4%	5.1%	1.7%	1.4%	100.0%
Q3	40.1%	52.4%	4.8%	1.2%	1.4%	100.0%
Q4	46.7%	46.7%	4.6%	0.8%	1.2%	100.0%
Q5	43.8%	47.3%	5.4%	1.6%	1.9%	100.0%
Q6	2.2%	6.8%	3.5%	5.0%	82.6%	100.0%
Q7	43.8%	46.9%	5.3%	1.6%	2.4%	100.0%
Q8	6.1%	7.1%	13.5%	21.4%	51.8%	100.0%

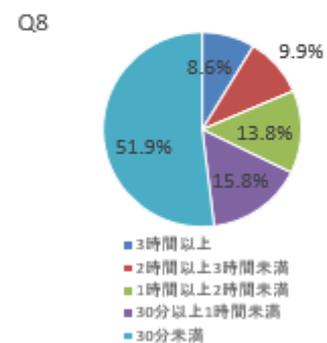
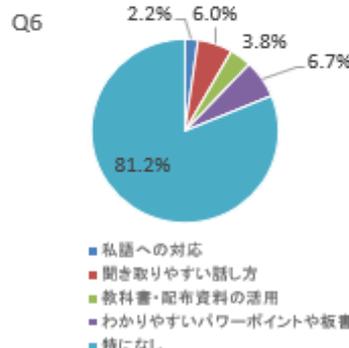
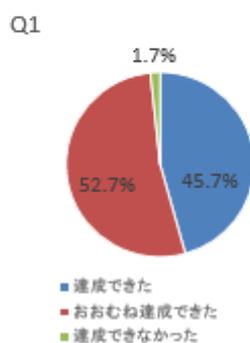
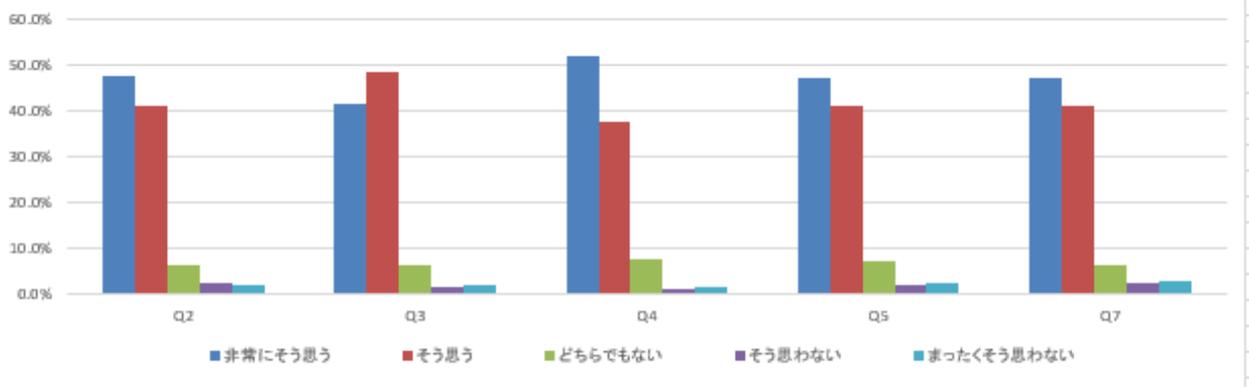


4 - (6). 授業アンケート集計結果 (子ども学科1年生)

令和4(2022)年度秋学期 授業アンケート

●子ども学科1年生集計

受講人数	回収数	回収率					
645	545	84.5%					
	1	2	3	4	5	計	
Q1	249	287	9	-	-	545	
Q2	259	225	36	13	12	545	
Q3	226	264	35	9	11	545	
Q4	282	204	42	7	10	545	
Q5	257	224	39	11	14	545	
Q6	13	35	22	39	472	581	
Q7	257	224	36	13	15	545	
Q8	47	54	75	86	283	545	
	1	2	3	4	5	計	
Q1	45.7%	52.7%	1.7%	-	-	100.0%	
Q2	47.5%	41.3%	6.6%	2.4%	2.2%	100.0%	
Q3	41.5%	48.4%	6.4%	1.7%	2.0%	100.0%	
Q4	51.7%	37.4%	7.7%	1.3%	1.8%	100.0%	
Q5	47.2%	41.1%	7.2%	2.0%	2.6%	100.0%	
Q6	2.2%	6.0%	3.8%	6.7%	81.2%	100.0%	
Q7	47.2%	41.1%	6.6%	2.4%	2.8%	100.0%	
Q8	8.6%	9.9%	13.8%	15.8%	51.9%	100.0%	



4 - (7). 授業アンケート集計結果 (子ども学科2年生)

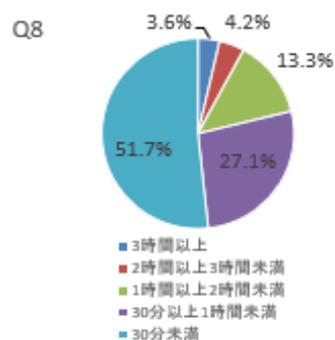
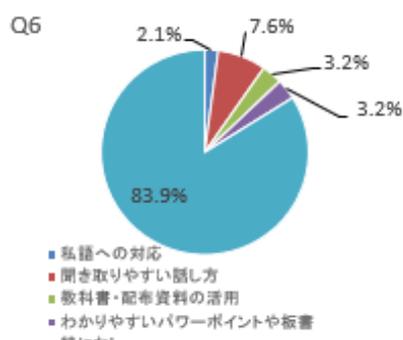
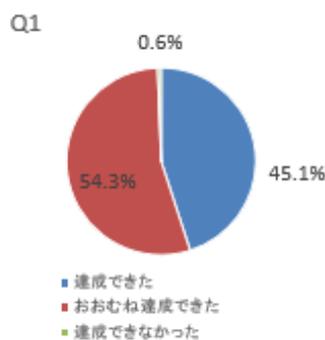
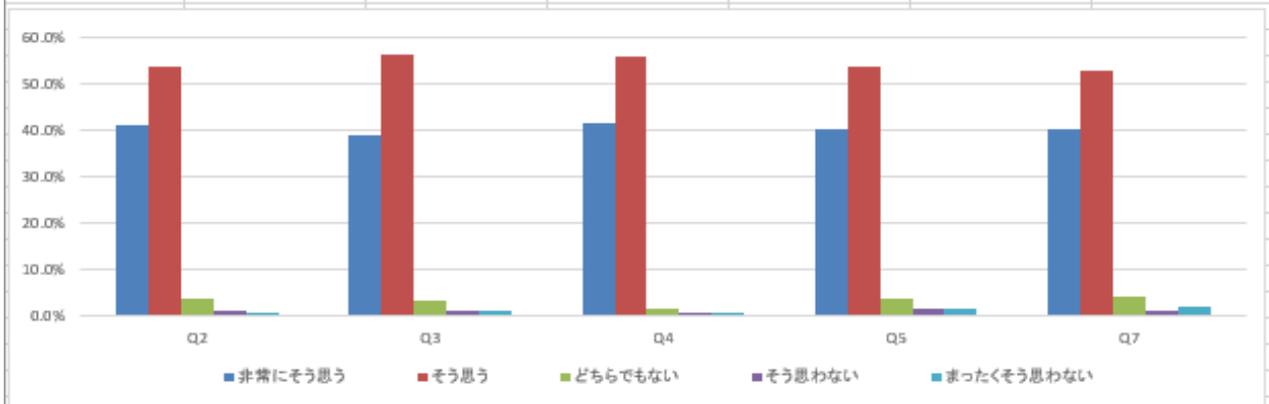
令和4(2022)年度秋学期 授業アンケート

●子ども学科2年次生集計

受講人数	回収数	回収率
723	495	68.5%

	1	2	3	4	5	計
Q1	223	269	3	-	-	495
Q2	204	265	18	5	3	495
Q3	192	279	16	4	4	495
Q4	206	277	7	2	3	495
Q5	200	265	18	6	6	495
Q6	11	40	17	17	443	528
Q7	200	261	20	4	10	495
Q8	18	21	66	134	256	495

	1	2	3	4	5	計
Q1	45.1%	54.3%	0.6%	-	-	100.0%
Q2	41.2%	53.5%	3.6%	1.0%	0.6%	100.0%
Q3	38.8%	56.4%	3.2%	0.8%	0.8%	100.0%
Q4	41.6%	56.0%	1.4%	0.4%	0.6%	100.0%
Q5	40.4%	53.5%	3.6%	1.2%	1.2%	100.0%
Q6	2.1%	7.6%	3.2%	3.2%	83.9%	100.0%
Q7	40.4%	52.7%	4.0%	0.8%	2.0%	100.0%
Q8	3.6%	4.2%	13.3%	27.1%	51.7%	100.0%



5 - (1). 全学的考察 (授業アンケート結果について)

今期も昨年度の秋学期と同様、8項目の授業アンケートと自由記述を行った。ここでは、その中の5項目のアンケート結果を中心に考察する。

質問項目 (1) あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。

	達成できた	おおむね達成できた	合計
令和2年度秋学期	23.2%	74.4%	97.6%
令和3年度春学期	31.5%	65.0%	96.5%
令和3年度秋学期	34.8%	62.7%	97.5%
令和4年度春学期	34.3%	62.8%	97.1%
令和4年度秋学期	40.6%	57.1%	97.7%

「達成できた」と回答した学生は、昨年度秋学期から5.8ポイントも上昇している。今学期は特に「達成できた」の評価の上昇が今までと比べて顕著であり、学生が「達成度が高い」と自覚していることが伺える。

質問項目 (2) 授業内容は興味・関心が持てましたか。

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和2年度秋学期	26.9%	61.6%	88.5%
令和3年度春学期	35.6%	53.2%	88.8%
令和3年度秋学期	35.6%	54.5%	90.1%
令和4年度春学期	39.5%	50.0%	89.5%
令和4年度秋学期	44.5%	47.4%	91.9%

「非常にそう思う」と回答した学生は44.5%で、ここ数年で一番高く、「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の合計も、昨年度秋学期より1.8ポイント増加している。9割以上の学生が興味・関心を持って授業に参加することができた。授業科目・授業内容の多くが同じである、昨年度同期と比較しても、「非常にそう思う」と回答した学生は8.9ポイント増加している。

質問項目 (3) 授業内容をよく理解できましたか。

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和2年度秋学期	20.3%	68.7%	89.0%
令和3年度春学期	28.8%	54.7%	83.5%
令和3年度秋学期	28.6%	57.9%	86.5%
令和4年度春学期	30.6%	54.0%	84.6%
令和4年度秋学期	38.1%	52.2%	90.3%

「非常にそう思う」と回答した学生は38.1%で、昨年度秋学期より9.5ポイント増加した。ここ数年で一番高い評価である。合計も昨年度同期と比較して3.8ポイント増加している。このことは、質問項目 (2) と関連して、授業内容への興味・関心が持てると、授業内容の理解も高いと言える。

質問項目（５）学生の理解を促す工夫がなされていたか。（言葉による説明だけでなく、適切な資料、板書等の活用、グループワーク）

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和２年度秋学期	27.8%	63.8%	91.6%
令和３年度春学期	33.7%	52.3%	86.0%
令和３年度秋学期	33.8%	52.5%	86.3%
令和４年度春学期	38.8%	48.9%	87.7%
令和４年度秋学期	42.0%	49.1%	91.1%

「非常にそう思う」と回答した学生は、昨年度秋学期よりも8.2ポイント、合計も、昨年度同期よりも4.8ポイント増加した。授業に対しても興味・関心や内容理解と連動している。授業の理解を促す工夫が、いろいろ取組まれ、学生の満足度が高くなっていると言える。

質問項目（８）あなたは、この授業の予修・復修など自主学修に1週間あたりどのくらいかけましたか。

※授業に間接的に関係のある学修を含む。学内外を問わず、授業時間以外の時間を回答（例 ピアノ練習、基礎プロ準備、実習準備等）

	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
令和２年度秋学期	7.8%	7.9%	23.4%	29.7%	31.2%
令和３年度春学期	6.6%	4.8%	12.5%	26.2%	49.9%
令和３年度秋学期	8.9%	7.5%	17.9%	24.3%	41.3%
令和４年度春学期	4.8%	3.7%	15.3%	23.6%	52.8%
令和４年度秋学期	7.3%	7.4%	16.5%	23.5%	45.3%

「1時間以上」自主学修をしたと回答した学生の合計は31.2%で、昨年度秋学期より3.1ポイント減少している。春学期23.8%よりは7.4ポイント増加している。やや増えたものの、秋学期30分未満の学生は、過去3年間で最大である。家庭で学修する習慣が身につけていない学生もいると考えられる。全体的に見ても、学修時間が少ないと言える。今後、課題の内容や学修の仕方などを丁寧に指導していく必要がある。特に「30分未満」「30分以上1時間未満」と回答した学生については、少しずつでも学修時間の増加を目指して今後対応していきたい。

5-（2）. 全学的考察（授業の質向上のために）

「（１）あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。」では、97%以上の学生が、「達成できた」「おおむね達成できた」と回答している。各学科とも1年生と2年生のポイントの差は見られなかった。今学期は特に「達成できた」との回答が顕著に増加している。各授業でアクティブラーニングなど、学生が主体的に学ぶような工夫がされ、「できた」「わかった」を実感できているのではないかと考える。今後さらに、高大接続の充実を図り、大学での学び方など、学生の主体的な学びに向けてスムーズに移行できるようにしていきたい。

授業内容への興味・関心（質問項目（２））や授業内容の理解（質問項目（３））、授業の理解を促す工夫（質問項目（５））の「非常にそう思う」の数値が伸びている。対面授業において、学生間の距離や密を避けるための場を工夫し、反転授業やグループワークなど、話し合いや学び合いの場を工夫している。講義形式の授業だけでなく、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取組み、グループワークやプレゼンテーションへの主体的な参加、さまざまな資料やICTの活用など、各授業を通して学生の資質・能力を確実に育成する取組を進めていることが反映されたと考える。

しかし、1週間あたりの自主学修時間については、半数近くの学生が「30分未満」と回答しており、依然高い

数値を示している。家庭での学修習慣を定着させるためには、個々の学生の学修へのモチベーションや学修意欲の向上が不可欠である。シラバスには、予修・復修の内容と時間を明記しており、反転授業の実施や予修・復修に係る課題も提示しているが、家庭での学修習慣の定着に向けて一層の取り組みが必要である。自主学修の充実を図るには、授業と自主学修を接続することが大切であり、課題の出し方や評価方法を工夫する必要がある。課題としては、知識等を定着させるための課題や授業の発展的な課題や学生が選択できる課題等、出し方を工夫するなど、学生が主体的に学びたいと感じ、成果を実感できる自主学修となるよう改善していくことが求められる。

教員のFD研修を計画的に実施し、学生が能動的に学ぶことができる授業の構築をめざして、大学全体として授業の質の向上を図っていききたい。

6- (1). 国文学科全体の考察 (授業アンケート結果について)

質問項目 (3) 「授業内容をよく理解できましたか」について、「非常にそう思う」「そう思う」および両者の合計を過去4年間の同時期と比べると次のようになる。

【表1】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
平成30年度秋学期	20.9%	49.9%	70.7%
令和元年度秋学期	21.0%	53.4%	74.4%
令和2年度秋学期	14.5%	73.5%	88.0%
令和3年度秋学期	18.9%	57.3%	76.2%
令和4年度秋学期	31.3%	52.9%	84.2%

昨年度と比較すると、「そう思う」は4%ほど減少しているが、「非常にそう思う」は12%ほど増加しているおり、過去5年ほどと比較しても「非常にそう思う」の数値は圧倒的に高い。また両者の合計も令和2年度に次ぎ最も高い数値を示している。

同じ項目の学年ごとの違いは以下の通りである。

【表2】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
1年生	37.8%	49.2%	87.0%
2年生	24.8%	56.7%	81.5%

昨年度と同じデータは次の通りである。

【表3】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
1年生	16.4%	50.7%	67.1%
2年生	23.9%	67.4%	91.3%

上のふたつのデータ (【表2】【表3】) を比較すると、第一に言えるのは今年度の1年生の授業内容理解についての自己評価が非常に高いことである。「非常にそう思う」「そう思う」の合計が87%というのは、ここ数年でいうと昨年度2年生の合計91.3%に次ぐ数値であり、1年生が授業内容をよく理解できたと考えていることが明確に示されている。

第二に、今年度2年生の授業理解度の自己評価が着実に上がっていることである。

【表4】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
1年次春学期	18.3%	40.5%	58.8%
1年次秋学期	16.4%	50.7%	67.1%
2年次春学期	18.3%	57.7%	76.0%
2年次秋学期	24.8%	56.7%	81.5%

このように、授業が理解できたと考えている層が着実に増加しており、学生の努力とともに教員の授業に対する工夫などの成果と考えることができる。

質問項目（８）の学習時間について、学年ごとの集計は以下の通りである。

【表 5】	3 時間以上	2 時間以上 3 時間未満	1 時間以上 2 時間未満	30 分以上 1 時間未満	30 分未満
	1 年生	1.3%	5.5%	22.74%	37.2%
2 年生	23.6%	11.5%	26.8%	17.8%	20.4%

1 年生は 2 時間以上学習している層、また 30 分以下の層は春学期とほぼ変化がない。1 時間以上 2 時間未満が約 10%減少し、反対に 30 分以上 1 時間未満が約 10%増加している。学習時間は相対的に春学期より減少しており、課題がある。対して 2 年生は 2 時間以上学習している層と 1 時間未満の層がそれぞれ増加しており、二極分化が見られる。両学年とも数年前と比べると学習時間は増える傾向が指摘でき、また 2 年生の 2 時間以上の学習時間については過去に例がないレベルで増加している。

コロナ禍は今年で 3 年目であり、今年度は授業内での配慮（席の間引きや換気その他）を除けばコロナ前と大きく変わらずに授業を行うことができた。

6 - (2). 国文学科全体の考察（授業の質向上のために）

昨年も記した通り、学習習慣の定着については、少しずつではあるが着実に定着してきている。学習時間の伸びから看取することができる。学習時間の増加は一定程度の成果が見られ、学習習慣もある程度定着してきたことを踏まえ、質的転換が次のステップであると 2020 年度末に指摘しているが、こちらについては未だ道半ばである。

今年度より「基礎ゼミ」を設置・開講したが、1 年生については以前よりもレポートの質が向上しており、「文章表現」とも相まって成果を上げていると考えている。次年度は「基礎ゼミ」開講後最初の「ゼミ」となるため、うまく接続し、相乗効果が得られるように授業を行っていかなければならない。

またアクティブラーニング、サービスマーケティング、フィールドワーク、ICT の活用といった授業方法の質をより向上させるための学科教員共同の授業研究も課題となっていた。本格的共同研究まではいかないが、学習内容等を学科会議で検討し、複数教員が共同で担当するなど、様々な取り組みを行った。その成果はある程度現れてきていると考えている。今後さらに深く取り組むことで一層の質向上を目指さなければならない。

7－(1)．子ども学科全体の考察（授業アンケート結果について）

①授業アンケート結果について

質問項目 2、質問項目 3、質問項目 5 について、3 年間の経緯を比較してみると、次のような結果であった。

質問項目 2：授業内容に関心が持てたか

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和 2 年度秋学期	29.3%	62.4%	91.7%
令和 3 年度秋学期	37.0%	54.3%	91.3%
令和 4 年度秋学期	44.4%	47.4%	91.8%

質問項目 3：授業内容が理解できた

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和 2 年度秋学期	26.0%	63.8%	89.8%
令和 3 年度秋学期	32.2%	58.1%	90.3%
令和 4 年度秋学期	40.1%	52.4%	92.5%

質問項目 5：授業に工夫があった

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和 2 年度秋学期	28.6%	63.3%	91.9%
令和 3 年度秋学期	35.6%	51.7%	87.3%
令和 4 年度秋学期	43.8%	47.3%	91.1%

どの項目についても、ここ数年、高い評価を示す結果がでており、授業内容への関心が高く、意欲的に学ぼうとする姿勢が見られる。理解できているととらえている学生が大半である。

秋学期は、グループワークや体験活動が昨年から比べるとかなり多く持つことができ、そのことが、「非常にそう思う」の数値が高くなっていることと関連しているのではないかと考えられる。学生自身、ここまで感染予防の観点から、どうしても講義形式の授業が多く、ストレスのたまる日々が続いていたように思われるが、ようやくアクティブラーニングによる学習が実感できるようになったといえる。半面、経験不足からグループワーク等を苦手とする者が多くみられ、不安をもって授業に臨む学生がこれまでより多いように思えた。

そうした中でも、授業への興味・関心を失わず、理解についても、高い数値を示していること、また「授業に工夫があった」についても 9 割の数値を示していることは、教員の授業に対する工夫や努力が成果につながり、学生からの高い評価となったといえる。

②学生の学修時間について

次に、「当該授業に関する授業外学修時間(週)」について、4年間の経緯を比較してみると、次のような結果であった。

質問項目 8：当該授業に関する授業外学修時間(週)

	3時間以上	2時間以上～3時間未満	1時間以上～2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満
令和2年度 秋学期	12.2%	11.4%	23.1%	22.9%	30.4%
令和3年度 秋学期	8.0%	7.9%	17.8%	22.8%	43.6%
令和4年度 秋学期	6.1%	7.1%	13.5%	21.4%	51.8%

1週間あたりの自主学修の時間は、昨年度、数値がかなり落ち込んでいたが少し回復した。令和2年度、令和3年度との差は、コロナ禍で遠隔授業が取り入れられ、レポートや課題の作成が求められたことで、家庭での学習時間が必然的に増加していたが、対面授業が実施されるようになり減少しているととらえている。

しかしながら、30分未満の学生が5割を超えるという結果は、大きな課題である。特に、現2年生の30分未満に回答した学生については、昨年度の2年生の回答と比較すると20ポイント増加しており、一つの課題としてとらえ現1年生へのこれからの指導を充実していく必要がある。

授業で出された課題に対して再度、学びをふり返り、自分で調べたり、考えたりして、学びを確かなものにしていくことが自主的な学びの姿勢につながるものであり、教員の課題の出し方を工夫するとともに、今後の学生に求められる学びの姿勢として引き続き指導していきたい。

③コロナ禍での授業について

リモートの授業を教員が経験する中で、chromebookを使った資料の配布や課題の提出等の指導技術が向上したといえる。そのため、学生個々との交流や指導、提出の確認等がこまやかにできるようになり、授業に対する工夫の評価が高いことにもつながっていると考えられる。

しかしながら、対面での授業、つまり、90分講義を集中して受けること、グループワークで考えを交流すること、体験学習に主体的に臨むこと等については、コロナ禍での生活が続いたこともあり、学生の経験も少なく、教員もコロナ禍での制限された対応の場面もあって、効果的な学習が難しかったように思える。

また、chromebookの活用能力は学生によってかなり差があり、授業後半になって学生の困り感に気づく場面も見られた。

今後は、グループワークや体験授業等、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、そうしたことに意欲的に臨める姿勢を学生に植え付けていきたい。特に基礎力においては、2年間の学びを充実させるためにも、学び方の指導やchromebookの活用に係る指導の充実を図っていきたい。

併せて、今後も状況によっては遠隔授業の実施も予想されるので、対面、遠隔の両面において、教員の研修を行うなどして、より一層指導方法の向上を図っていく必要がある。また、早い段階から問題を整理し、環境面での整備についても充実を図っていただきたいと考える。

④前年度または前学期の授業アンケート考察時から改善されたことについて

授業の質的な向上に向けた取り組みの成果は継続されており、学生のアンケート結果として着実に出てきている。教員は、遠隔授業の経験からアクティブラーニングや体験的活動の価値を再確認し、対面授業が本格的に始まった今、それらを実践していく力量をつけなければならないことを自覚できたように思う。

今後も、学生の学習に対する意欲や関心、また不安な気持ちについての把握に努め、本学としてのアクティブラーニングの充実に努めていきたい。

7- (2). 子ども学科全体の考察 (授業の質向上のために)

PROG や教学 IR の学修成果の査定の結果をもとに、目の前の学生に力をつけていくためには、授業をどのようにしていけばよいのかを考えていくことが重要ととらえている。今後も引き続き、学科として、「授業の質の向上」の取組みを進め、今まで推進してきたアクティブラーニングを取り入れた授業実践を様々な授業形態において進めていきたい。引き続き、学科目標に「授業の質の向上」を掲げ、教員が授業に対して創意工夫のある取組みを推進することが重要であり、研修の機会を充実していくことも大切であるとする。

併せて、学生の学ぶ意欲、資格免許を取得するという強い意志を育て、主体的な学習態度や困難や不安を乗り越える力の育成にも取り組んでいく必要がある。

8. 授業アンケート回答率の推移

本学では、令和元(2019)年度より電子媒体である学生ポータルサイト (Campus Plan portal) を利用して授業アンケートを実施している。

本学では授業アンケートは無記名式の回答である。

今学期と過去3年間について、回答率の推移を学科・学年別に比較する。

	国文学科		子ども学科		全学	
	回収率	回収/受講	回収率	回収/受講	回収率	回収/受講
令和元年度春学期	89.2%	452/507	81.3%	959/1180	83.6%	1411/1687
令和元年度秋学期	86.0%	442/514	88.6%	952/1074	87.8%	1394/1588
令和2年度春学期	85.9%	511/595	89.6%	1097/1224	88.4%	1608/1819
令和2年度秋学期	76.1%	388/510	83.2%	939/1129	81.0%	1327/1639
令和3年度春学期	90.7%	556/613	86.8%	1426/1642	87.9%	1982/2255
令和3年度秋学期	90.0%	497/552	82.7%	1340/1620	84.6%	1837/2172
令和4年度春学期	88.6%	504/569	81.7%	1221/1494	83.6%	1725/2063
令和4年度秋学期	92.1%	395/429	76.0%	1040/1398	79.9%	1435/1797
平均・合計	87.3%	3745/4289	83.7%	8974/10731	84.7%	12719/15020

一般的に大学で学生にアンケートを実施する際は、紙媒体の方が電子媒体よりも回収率が高いといわれている。本学は今年度で電子媒体での授業アンケートの実施は4年目に入り、在学生は全員が入学時より電子媒体で授業アンケートに回答している。学生がポータルサイトや機器の使用方法にも慣れてきている。昨年度と比較すると国文学科は回収率が上昇しているが、子ども学科は減少している。子ども学科は、2年生の回収率が特に悪い。学生の状況を見ていると、今年は実施時期と就職活動等で授業に出席できない学生がいたことや欠席者が多かったのではないかと考えられる。

これからも学生が安心して回答できるよう、授業アンケートは無記名式かつ電子媒体での実施を継続する予定である。

次年度以降も引き続き、まず学生の声を聴き授業改善について検討する材料を十分集められるよう、授業内での確実な授業アンケートの実施に努めていく。

以上